

神奈川県立松陽高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和6年度 松陽高等学校 第3回 学校運営協議会
開催日時	令和7年3月13日(木)10時00分～
開催場所	本校会議室
出席者	<学校運営協議会委員> (会長) 見目 りえ 本校PTA会長 (副会長) 石神 貴子 本校校長 中山 懐利 和泉北部連合自治会長 有元 典文 横浜国立大学教育学部教授 齋藤 敦子 横浜市立いずみ野小学校長 笠原 昭彦 本校同窓会会長 <事務局> 森本雄二(副校長)、丸谷真理子(教頭)、佐山裕一(事務長)、 今井富美代(総括教諭)、田嶋美和(総括教諭)、松村慶一(総括教諭)、 鈴木雅貴(教諭)、豊岡博之(教諭)、武内研三(教諭・記録)
会議資料	(資 料) 「令和6年度学校評価報告書(実施結果)」 (1～2ページ) 「生徒による授業評価アンケート集計結果」 (3～8ページ) 「令和6年度魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」 (本校生徒3年生の満足度集計結果) (9ページ) 「令和6年度県立高校指定事業(令和4年度指定)実施報告書」 (10～12ページ) 「52期生 部活動アンケート」 (13～18ページ) 「51期生進路状況」 (19ページ) 「災害時炊飯訓練【12/10(火)】いずみ野小 生徒さんの感想」 PTA広報紙 123号(12.16発行)
	・量的(数値目標)評価より質的評価に重点を置きたい。問題点に着目するよりも長所に着目すると、防災訓練の取組は他校ではなかなかできない良い内容。一方、広報紙「松陽」に掲載する写真に松陽らしさを見出して選ぶとよい(体操部のアクロバティックな演技、文化祭の食べ物など)。 ・「持続可能な評価」とは「結果だけでなく、経過もみる」ということ。部活動アンケートから技術だけでなく、人間性や責任感など様々な資質をその経過を通じて伸ばしていることが読み取れる。成長の場としての部活動を大切にすべき。 ・校外活動について、例えばボランティア活動として頼まれたことを行う受動的なお手伝いだけでなく、地域の競技会や大会に部活単位で参加するなどの参加型の活動も取り入れるとよい。 ・「交通事故0」、またマチコミを通じて学校の情報を細かく連絡してくれることがありがたい。 ・悩みや、進路について相談できる環境が充実しているのも生徒の保護者としてありがたい(資料Pg.9 B9・B10参照)。 ・松陽高校の魅力について、入学予定者に行ったヒアリングで「雰囲気がいい」、「落ち着きがある」、「チャラチャラしていない」と落ち着きのある校風に惹かれる様子が見られた。制服などの外見よりも、校風などの中身を見て評価している生徒が多い。今回(51期生)の進路実績を踏まえ、来年度の入試倍率は伸びると予想される。あと隠れたアピールポイントとして、起伏の多い横浜地区において平坦な通学路というのも実は魅力の一つ。 ・SNSを活用しきれていないのが松陽高校の弱点。もっと(上記のような)松陽高校の魅力をアピールするべき。 ・PTAでも話し合っていることとして、今後生徒たちに食育について理解をより深める機会も持たせたい。 ・(参加型のボランティアに関連して)松陽高校の体育祭にPTA&地域連合チームとして参加させてもらうのも地域との連携に繋がる試みとして検討してほしい。 ・制服に関連して、「制服の着用規定について検討する会」が主体となって、リボンとネクタイの作成に取り組んでいる。現在サンプル候補を3～4点にまで絞ったので、全校生徒、教員の投票で本校のリボン、ネクタイを決定し、3月25日の生徒総会で発表する。 ・51期生の高い進路実績は素晴らしいが、なぜ国公立(の合格者・受験者)が少ないのか。 ・国公立は5教科7科目が必要であるのに対し、私学はほとんどが文系または理系の3教科で受験できる差が大きい。一方、その差がある中で国公立に挑戦し、合格を勝ち取っている子はバイタリティが高いと言える。

議事録

- ・国公立は学費が私大に比べて安く、ファッションも過度に気にする必要がないという点で松陽生に合っている環境と思う。
 - ・(受験教科・科目の多寡に加え)国公立の場合、2次試験のある3月まで頑張らなければならないのも松陽生にとっては高いハードルとなっている。
 - ・本日都合により欠席された委員2名からのメッセージも共有したい。
 - ・生活指導の様々な事案について文書に残したことで今後への予防にもつながる。
 - ・交通事故発生件数が0であることは素晴らしい。登校マナーもとても良い。
 - ・今後とも幼保・小・高の連携をとっていきたい。
 - ・授業力向上について、具体的な生徒へのアプローチ方法について研修したほうがよい。
 - ・模試の結果から松陽高校の生徒の学力の実態(状況や蛍光)について把握し、それを教科指導に落とし取組ができるとよい。
 - ・教育相談体制について、生徒の悩みをキャッチする窓口を「サポートドック」に重きを置くのか、「日々の教員のヒアリング」に重きを置くのか明確にしたほうがよい。
 - ・地域との防災活動は毎年確認するとよい。
 - ・授業評価アンケート(資料Pg.3~6)項目4「授業の中で～」というのが、文字通り授業の中でできただけではあまり意味がないので丁寧に後追いをすべき。
 - ・部活動アンケートから、自己認識としての「能力が向上した」という意見、また「自分たちでできるようになった、達成した」という集団意識に関する記述がある。部活動が自己関心、他者貢献の両方を育てる要素になっている。
- 【有識者による評価】
- ・3回の学校運営協議会において、適正な自己評価に基づく、適切かつ十分な協議が行われ、学校運営、教育(支援)活動の水準の向上と発展が見込めると判断した。
 - ・「現実的な学習動機づけ」:ボランティア、防災、広報等、さまざまな機会に生徒が主体的・対話的に地域社会や近隣の小中学校と連携できるような励ましと教育的な工夫がなされていること。このことが翻って日常的教育課程における学修に現実的な意義を与えていると判断する。
 - 細かなところでは、次のような点の改善を期待する。
 - ・松陽高校と中学校とのボランティア交流は、両校にとって大変有意義な活動であり今後の発展に大きく期待している。
 - ・松陽高校生は、学習と高校生活の両立を大切にしていることを強く感じた。この落ち着いた環境を大いに味わい、バランスの取れた成長を獲得してほしい。高校生活の充実が進路にもプラスに働くことを実証してほしい。
 - ・学校の広報、学校の良い雰囲気を前面に出して発信していくとよい。
 - ・主体的に働くことが人の幸せにつながる。目標と評価に負担がかからないようにしてほしい。
 - ・部活動アンケートから、部活動が「自己関心」「他社貢献」の両方を育てる要素になっていることがわかる。教職員にもその点を意識して生徒の指導・支援をしてほしい。
 - ・学校評価は、量的評価(数値目標)より質的評価に重点を置いたほうが良い。また、問題点より長所に着目してよい。そのことで、他校でできない取り組みが活性化する。
 - ・「授業の中でできた」だけでなく、授業で学んだことをどのように活用できるかを後追いすべきである。